

### 3-1 コロナ禍の情報共有の問題と対応 (生産・物流)

#### POINT

- 3密回避は、ICT（情報通信技術）の利用などで工夫する
- 会社見学の代わりに Web 会社案内で効率化

#### コロナ禍の仕事場の変化

新型コロナウイルスの感染拡大防止策として外出自粛要請が出されてから、労働環境が大きく変わった。国の提言する「密」を避ける方法は、テレワークや時差通勤、オンライン会議、ソーシャルディスタンスの確保などがあるが、どちらかという、オフィスワークが中心である。生産現場での作業はリモートワークでは代替できず、なかなか人手を減らすことができない。そこで製造現場では、マスク着用や手洗い、手指消毒の励行は当然として、知恵を絞って感染予防策を講じている。

#### 【コロナ対策の例】

- ① 勤務体系を3交代制にして24時間稼働にする
  - ② 食堂を交代制にし、席の間隔を空けて同一方向に並べる
  - ③ 全体朝礼は「密」になることから廃止。小グループでの朝礼に変える
  - ④ 製造ラインを2m間隔に再編成
  - ⑤ 現場のOJTによる手取り足取りの技術指導停止
  - ⑥ 物流業者の受入れは最少人員で事前承認が必要
  - ⑦ 工場見学、会社見学中止
- 主なコロナ対策を図1に示す。

#### 問題点

みなさんの職場でも、上記のような感染防止対策を行っていると思うが、その影響で、以下のような問題が発生しているかもしれない。

#### 1. 全体での情報共有の場がなくなった

全体朝礼で情報を伝えれば同じ情報が全員に伝わり共有できたが、今はチーム別の朝礼のため同じ情報が等しく伝わっているかの疑問が残る。

#### 2. 社員の不安増と帰属意識の低下

新入社員や若手社員は特に、コロナ禍に不安を感じやすい。上司、同僚など人との関わりが少ないため、愛社精神、仲間意識が低下しがちである。

#### 3. 人材育成の制約

これまでは、データや文書より、直接関わり口頭や「現場に行ったほうが早い」という文化があった。OJTは現場作業の中で手取り足取り「対面」で教えることだが、現場での親身な指導ができなくなった。また、本人が先輩の作業を見よう見まねで覚えることも重要だがそれも困難になった。

#### コロナ禍の情報共有の対応例

#### 1. 朝礼をオンライン会議(Zoomなど)で行う

コロナ禍での社員の不安を取り除くため、会社の取組みを示すことも大事である(「6-5」参照)。

#### 2. スマホのビジネスチャットツールの活用

ビジネスチャットで、業務連絡やコミュニケーションの活性化・効率化が可能になる。現場社員もスマホで都度確認し即答できる。メールに比べて発信しやすく、受信者もメッセージに気づきやすい(「6-6」参照)。

#### 3. ウェアラブルカメラなどの活用

- ① インフラ業界などでは作業ミスを防ぐため2人以上で多重チェックを行うが、1人が遠隔から確認することで移動が不要になりコスト削減にもなる(図2)
- ② 工場見学、会社見学をWeb会社案内に変えることで相手先の移動時間節減にもなる
- ③ 作業手順などの教育研修ビデオを制作したり、最近では、複合現実が見えるゴーグル型端末を装着し作業しながら技術を習得する例もある(図3)

図1 対象別のコロナ対策

対象先	予防策の例
作業員への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員マスクを着用、手洗いの励行</li> <li>・共有の台車、工具、PCの使用後は手指消毒</li> <li>・交代時の申し送りはノートで</li> <li>・自転車・自家用車通勤の許可</li> </ul>
現場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン生産からセル生産へ見直し</li> <li>・製造ラインを2m間隔に再編成</li> <li>・人が触る設備やドアノブなどは定期的に消毒</li> <li>・ゴミの回収はこまめに行い、作業後に手洗い</li> <li>・出入口の扉を常時開放</li> </ul>
来訪者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来客と工場見学の受入禁止（Web 会社案内に変える）</li> <li>・物流関係者は検温し発熱がある場合は入構不可</li> </ul>

参考：「社員を守る!! 製造業での新型コロナウイルス感染症対策【予防事例集】」  
 (名古屋商工会議所)

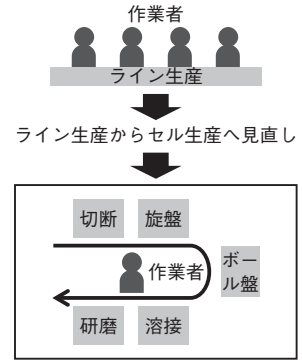


図2 ウェアラブルカメラなどの活用

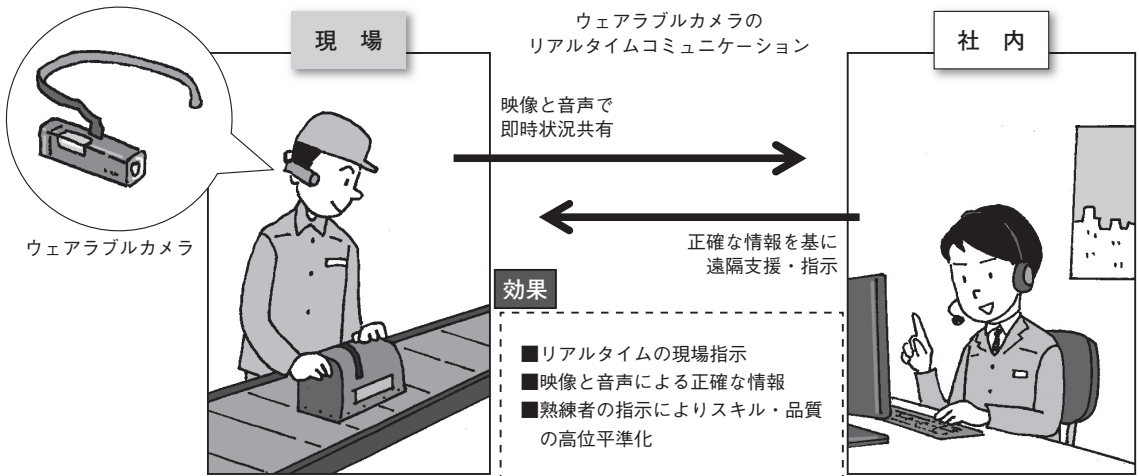


図3 MR技術を使った作業習得

